



# 長野県立こども病院だより

2009年10月20日発行  
No.14

## 長野県立こども病院理念

—こどもは社会に潤いを、未来に希望を与える生物です—

長野県立こども病院は、周産期・小児の専門医療を、  
全人的な総合医療として提供し、未来あるこどもたちの  
健やかな育成を目指します。



日本医療機能評価機構  
当院は日本医療評価  
機構の認定病院です。



福田年方 様寄贈絵画より

外来名	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	
整形外科	藤岡文夫(AM)	(手術日)	松原光宏(AM) 藤岡文夫(AMは器具) 加藤博之(AMは器具)		藤岡文夫 松原光宏	
小児外科	好沢 克(AM) 高見澤 滋(PM)	高見澤 滋(AM) <small>皮膚・泌尿ケア外来 (15:30~)</small>		町田水穂(AM) 好沢 克(PM)	町田水穂(AM)	
眼科	非常勤 <sup>※2</sup>			非常勤(第1木AM)	非常勤(AM)	
総合診療部	総合診療	石井栄三郎	石井栄三郎(AM) 石井QOL(PM)	川合 博(AM) 吉川健太郎(PM)	竹内浩一	石井栄三郎(AM)
	内分泌・神経他		竹内浩一			
	血液・免疫	川合 博(AM) 吉川健太郎(PM)	南雲治夫	石井栄三郎	平林耕一	吉川健太郎(AM)
循環器科	原田順和 坂本貴彦(AM)	安河内 聡 瀧間浄宏	坂本貴彦(AM)	安河内 聡 武井黄太	瀧間浄宏 武井黄太	
北棟外来	脳神経外科	重田裕明 宮入洋祐(PM)	重田裕明		重田裕明 宮入洋祐(PM)	
	泌尿器科	西澤秀治(AM)		西澤秀治(AM) <small>皮膚・泌尿ケア外来(PM)</small>		西澤秀治(AM)
	小児外科					高見澤 滋 (皮膚・ 中心特設外来(PM))
	総合診療部 新生児フォローアップ	高橋大二郎(PM)	小久保雅代	中村友彦	三代澤幸秀	小久保雅代
	形成外科	野口昌彦 近藤昭二	近藤昭二(PM)	野口昌彦 近藤昭二(レーザー)	野口昌彦(レーザー)PM 近藤昭二(PM)	野口昌彦(PM) 近藤昭二(PM)
	麻酔・集中治療科	大畑 淳(AM)				
	総合診療部 予防接種外来(第2・4)		田中哲郎(PM)			
	皮膚科			芦田敦子(非)AM		
	神経科	平林伸一	平林伸一 平野 悟	笛木 昇 平林伸一(PM)	平野 悟(PM)	平林伸一 平野 悟
	精神科 こころの診療科				原田 謙(非)PM <sup>※3</sup>	
	遺伝科	古庄知己(PM)				川目 裕 <sup>※4</sup>
	耳鼻いんこう科		工 稔(非) (PM2:00~5:00)			
	循環器科 胎児心臓外来				瀧間浄宏(PM)	安河内 聡(AM)
	産科	高木紀美代 菊池昭彦(PM)	高木紀美代 堀越嗣博	菊池昭彦 高木紀美代	堀越嗣博 菊池昭彦(PM)	菊池昭彦 高木紀美代
リハビリ テーション科	笛木 昇 原田由紀子(非)	河野千夏(非)AM 笛木 昇(PM) (摂食嚥下外来)	平林伸一(AM)	笛木 昇 平野 悟(AM) 原田由紀子(非)AM	笛木 昇(AM 器具)	

※1 整形外科の加藤医師は隔月第3水曜日のみです。 (非)・・・非常勤医師  
 ※2 10/5・19、11/2・16、12/7・21 診察日となります。  
 ※3 精神科(こころの診療科)外来の初診を受けるには、予め総合診療外来または神経科外来の受診が必要となります。  
 ※4 10/16・30、11/6・20、12/11/25 の午前11時からの診察となります。  
 ★診察時間：午前9時～午後4時 休診日：土・日曜日、祝祭日、年末年始  
 ★受診には、原則として予約が必要です。また、初診時には保険医療機関からの紹介状が必要です。  
 予約受付時間：8時30分～17時15分 月曜日～金曜日(土・日曜日、祝祭日、年末年始を除く)

予約専用電話0263-73-5300

<http://www.pref.nagano.jp/xeisei/kodomo/>

## ご挨拶

院長 宮坂 勝之

黄金色の稲穂も順調に刈入れが終わりました。今夏の前半は天候不順が続きましたこれだけ毎年不順とされる天候が続くと、順調な夏は何時のことだったのかとさえ思えます。社会情勢も例外ではなく、90年前のスペイン風邪と世界大恐慌の同時勃発を彷彿とさせる世界的な金融危機と新型インフルエンザの発生という大きな社会の荒波に加え、政権交代の大波も押し寄せてきます。そして来年4月に迫った独立行政法人化という大きな課題もあります。さらにここにきて、院長の私にとっては就任以来の悲願であった医療情報の電子化(電子カルテ化)の実施が決まりました。医療情報の電子化を、情報共有と活用により小児医療の質の向上が図れ、さらに医療の安全性を高める中心と位置づけ、その導入を行政に納得させるために職員を鼓舞し経営改善を推進してきましたので、電子カルテ導入は率直に喜ばしいことです。経験したことがない新しい技術に防御的になるのは人の常であり、職員には様々な負担がかかる中で短期間での電子カルテの導入は容易ではありませんが、日常業務の改善を伴わない電子化は負担を増すだけです。「患者の医

療の安全と質の向上」をキーワードに先進施設での経験を生かし、職員一丸となって電子化に取り組みたいと思います。

この3年間の時代を見越した運営の成果として、明るい兆しもあります。中でも最大の財産はこの間培ってきた職員一同の業務改善、経営改善の意識付けです。昨年度は県からの繰入金合算した上ですが過去最大の4億円規模の黒字を出しました。これは極めて大きな成果ですが、それが十分に評価され、独立行政法人化を間近にした職員の働く意欲の向上につながることを期待します。

最後に新型インフルエンザに関してです。医学的には季節性インフルエンザの取扱いと何ら変わらず、パニックになることなく日常と変わらない医療を提供するのが医療者の務めだと考え、職員に周知しております。ただ新型であるだけに罹患する患者が短時間に急増する可能性があり、必然的に当院の役割である、「小児集中

## Contents

ご挨拶	1
こども病院コーラル文庫	2
平成20年度決算の概要	3
ボランティアの窓から	
ボランティア・コーディネーター	4
南極教室	4
子どもに安全をプレゼントしよう	5
外来医師担当表	6

治療が必要となる重症患者」の受け入れが増えることが予想されます。そうした患者を適切に治療できる国内で数少ない施設である当院は、全県あるいは医療圏を越えて受け入れる使命があります。患者の増加や職員自身の感染以上に病院機能に影響するのは、学級閉鎖などによる間接的な職員の出勤制限であり、通常の病院機能の維持に支障がでる可能性が生じることで、その場合には予定された手術や入院の制限をしてでも、重症患者の治療に全力が尽くす体制をとりますが、そのために影響を受けられる

患者・ご家族の御理解を賜りたいと思います。皆様方には相変わらずのこども病院への御理解とご支援ありがとうございます。当院は多くの方々の善意やボランティアに支えられています。特に先般は、約30年間続いた長野県青年の船に参加された10,000を越える方々から、コーラル文庫・劇場の名の下に多額なご寄付をいただきました。これからも、こうした一般の方々の小児医療に対するご意志を十分に生かすよう、職員一同精進して参ります。

## こども病院コーラル文庫（さんごのとしょしつ）シアター整備事業について

「コーラル・ファンド運営委員会（青年育成国際交流基金）」は、平成59年11月に長野県青年海外交流基金を母体とし、信州青年洋上セミナーに参加された皆さんからの拠出金を基金として発足され、県内の若者の国際交流活動に助成金を支給する事業などにご尽力されてきましたが、平成21年8月8日をもって、当ファンドを解散されその基金を長野県に寄付されることになりました。

長野県では当ファンドからのお申し出により、その寄付を長野県立図書館と当院で受けることになり、当院ではその寄付のご趣旨に添い、こども病院の患者アメニティの充実を図ることにいたしました。具体的には、病院のエントランスホールに図書・シアタースペースを整備し、入院外来患者家族の皆様をはじめ、院外の一般県民の方も自由に利用することができる病院図書館（しろくま図書館）の充実を図っていく予定です。



信州青年洋上セミナー（信州青年の船）は、県内各地から集った青年が研修や長い船旅を通して、同行する仲間との研鑽や中国、韓国などの訪問先の青年達との交流などを通じて人材育成を図る事業で、昭和49年の第1船から平成13年度の第28船までの28年の長きにわたり行なわれ、一万人以上の青年が乗船しました。その後当事業は経済情勢の変化や一定の成果を挙げたということで平成14年から廃止となりました。



## 子どもに安全をプレゼントしよう

### — 子どもの事故防止 —

副院長 田中哲郎

子どもの病気による死亡率は、多くの小児医療関係者、保健関係者の努力により著しく減少しています。しかし、事故により亡くなる子どもは、病気による死亡者の減少に比べ少なく、1歳を過ぎた子どもの死亡原因の第1位は「不慮の事故」です。このことからわかるように子どもの健全な育成のためには事故防止が大切になっています。

子どもの事故は全ての子どもに見られ、生まれてから小学校入学までの間に大部分の子どもは病院、診療所で治療が必要な事故にあっており、うちの子は大丈夫ということはありません。

子どもが事故で医療機関を受診した経験のあるお母さん、お父さんへの調査によると全体の4分の3が「前もって事故防止についての情報を知って、少し心配していたならば防げた事故だった」と答えています。このことから保護者に事故を未然に防ぐための知識を持って欲しいと考えています。

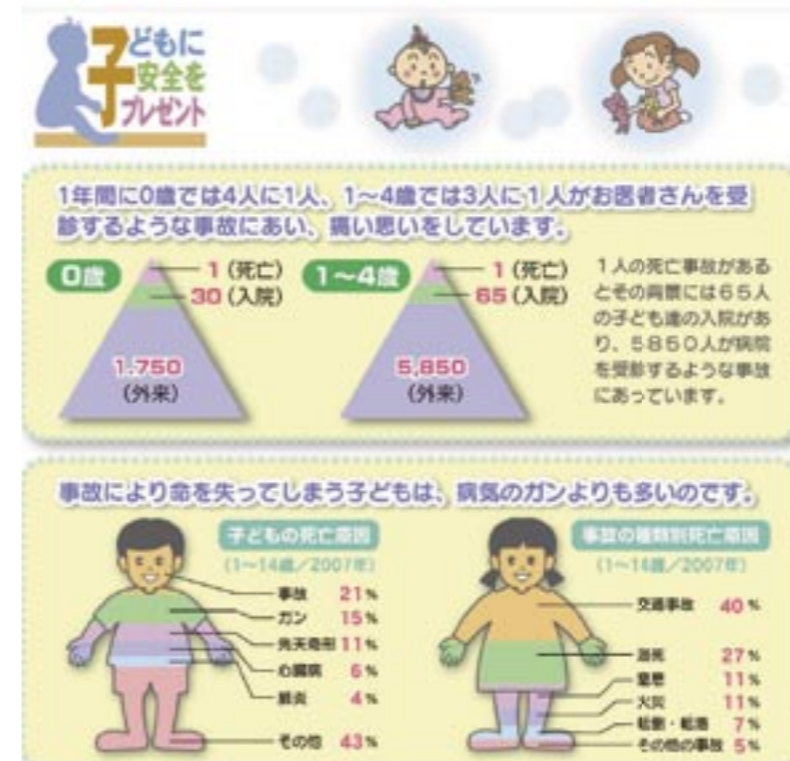
子どもの事故を防ぐためには、子どもの発達

の視点より考えてみる必要があります。現在、子どもがどこまで発達し何ができるのか（寝返り、ハイハイなど）、そして成長が早いのもう少しすると何が出来るようになるかを考えて事故防止の対応をするとよいでしょう。例えば生まれて5か月ぐらいになると物がつかめるようになり、口に何でも持っていきようになるので誤飲事故が多くなります。子どもの口の中に入る32mm以下のタバコや小物を子どもの手の届くところに置かないようにすることが大切です。6か月になれば寝返りができるようになり、柵のない高いところに寝かせておけば転落の危険があります。ハイハイが出来るようになれば、転落、やけど、誤飲などが起きます。事故には様々な種類があり、全ての事故を知り、その対策を覚えることは無理です。基本的な事故防止の情報を知り、それらの事故がなぜ起こるのかを理解しておく危険な箇所や行動が見えてきますので、それに対応することで事故防止が可能となります。詳細は紙面の都合で書

けませんのでこども病院のホームページの中にある「事故防止支援サイト」を見てください。サイトには発達別の事故、お父さんやお母さんの子どもの事故対策が不十分な点がわかるチェックリスト、万が一の場合の応急手当てが記載されています。

また、3歳ぐらいになると親が常に子どもと行動することは出来ないの子ども自身も安全・危険を判断することが必要です。親が良い手本を示し、子どもに繰り返し教えてあげることが必要です。

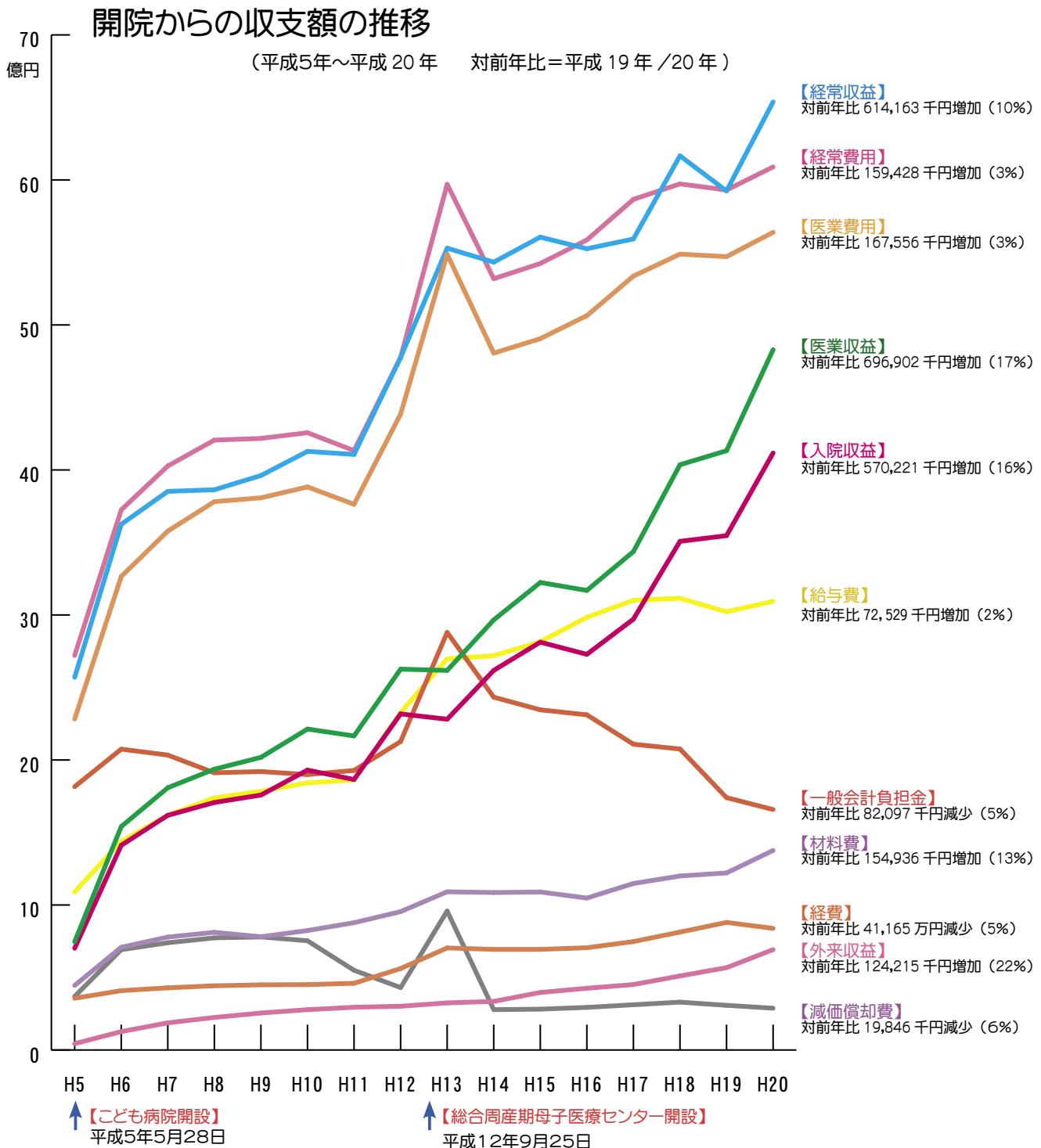
保護者は病気の予防だけでなく、子どもの事故防止についても気くばりに努め、子どもに安全をプレゼントしましょう。



# 平成20年度決算の概要

患者数は入院・外来とも大幅に増え、前年に比べて4,600人増加し10万5千人となりました。その結果、医業収益は、診療報酬改定の効果もあり前年度を16.9%上回る過去最高の48億2千万円を計上しました。

医業費用は、患者増による医療材料の増加や高額注射薬の使用量増などによる材料費の増加があり、前年度を3.1%上回る56億3千万円となりました。医業外収益に含む一般会計負担金は、高度小児医療経費の算出方法変更等により、前年度を4.7%、額で8千2百万円減少し、過去最低額（16億5千万円）となっています。経常収益（医業収益と医業外収益の合計）は、患者数増加、診療報酬の改定等により前年度を6億1千4百万円上回る65億3千8百万円となり、経常費用（医業費用と医業外費用の合計）は前年度を1億5千9百万円上回る60億8千9百万円でしたが、収支の差は4億4千8百万円のプラスと、大幅な増益となりました。



## ボランティアの窓から —ボランティア・コーディネーター—

この4月より勤務しています。こども病院では、平成10年より入院中のこども達のベッドサイドでお話するボランティアとして関わってきました。当時は、病院も成長期ということで職員を始め、ボランティアも無我夢中で色々なことを試行錯誤しながら行ってきたように思います。

開院から16年がたち、病院もまさに成熟期となりました。ボランティアも100名近くの方が関わるようになり、この方々と利用して下さる方達が“つながる”ようにすることが私の仕事です。病棟コンサートや髪きりボランティアなど病棟内で活動されるボランティアでは、

どの病棟でやったら良いのか、希望者の有無などを聞きながら看護の皆さんと受入の調整をします。また、しろくま図書館(患者図書館)では、図書ボランティアさんが様々なイベントを企画して下さるので、院内に広報したりしています。とにかく、様々な種類のボランティアさんがおられるので、患者さんにとってもボランティアさんにとってもお互いに温かい気持ちになれるよう橋渡しができれば良いなと思っています。

今後も多くの方々と出会い、たくさんの笑顔に出会えることを励みに、コーディネーターとしての役割を果たしていきたいと思います。まだまだ多くのご迷惑もおかけするかもしれませんが、どうぞよろしくお願いいたします。

(市瀬明美)

## 南極教室が開催されました

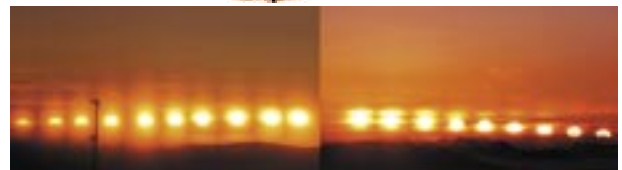


第50次日本南極地域観測隊に昨年8月まで当院の麻酔・集中治療部の麻酔科医として勤務していた井口まりさんが参加しています。

8月3日に南極・昭和基地と当院の院内学級とをライブ回線(衛星回線で結んだテレビ電話シ



ステム)で結び、南極教室が開かれました。南極での仕事や生活の紹介、子ども



この写真は9月初めのもので、太陽を5分間隔で撮ったものだそうです(井口隊員提供)。まだ、太陽も高く昇らず、今年はブリザードが多く、井口隊員自らのブルドーザーでの除雪が大変とのことでした。

たちからの盛んな質問に井口隊員や他の隊員の皆さんはにこやかに答えていました。最後には国立極地研究所の方が持参された南極の氷も披露されました。

### ご寄付ありがとうございます

“患者さま・病院に”と多くの方々からいただきました。感謝をこめてご芳名を掲載させていただきます。

信州セラミックス 桜田 道子 様  
一柳 淳 様  
明美 様  
高山 朝子 様  
肥沼 きよ 様  
御菓子処藤村 近藤 智郷 様  
福田 年方 様

大町幼稚園 園児・父母の会一同 様  
宮谷 真由美 様  
上原 ゆう子 様  
吉井 小百合 様  
長野県労働金庫 あづみの支店運営委員会 様  
NTT 東日本—長野上田支店 山城 剛 様 他

(2009年2月より)